

平成28年度一般選抜（前期日程）

小論文問題

注意事項

- 1 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙を開けてはいけません。
- 2 問題用紙・解答用紙の定められた欄に必ず受験番号と氏名を記入しなさい。
- 3 問題用紙と解答用紙が別々になっています。表紙は切り離さずに解答しなさい。
- 4 問題用紙は表紙を入れて2枚、解答用紙が1枚あります。
- 5 解答時間は60分です。
- 6 解答は解答用紙に横書きに記入しなさい。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

【問題】次の文章を読み、表題をつけ、あなたの考えを述べなさい。

(表題は解答用紙の1行目に25字以内で記載し、字数は表題を含めて800字以内とする。)

放浪は寂しいことなのだ。寂しいことだけど、歓びがある。

定住する人には、定住することの寂しさがある。定住することの歓びというものもある。

そのどちらに軸足を置くかで、その人の生き方が分かれてゆくわけだけれども、孤独のころを、定住しても失わないということが、私はすごく大事な生き方のような気がしている。

つまり、人と一緒に行動しながら、すべての面で人と和すわけではないということだ。

そう言うと、なんとなく中途半端だと思われるかもしれないが、現実の生活というのはそうしたものだと思う。笑顔をつくっているけれども、ころの中では寂しい。それが現実なのである。

生きるか、死ぬか。そのどちらか、ということではない。生きるということは死を見つめながら生きることであり、死ぬということは生きているからこそできることなのである。

なんでも二つに分けてしまうのは、きっぱりした生き方と見えるかもしれないが、私は、もっとこんがらがった生き方のほうが大事だと思う。

結婚する人もいる。結婚しない人もいる。子供をつくる人もいるし、つくらない人もいる。会社に勤める人もいる。自由業の人もいる。反体制の人もいれば、体制をつくっていく人もいる。人の世は、さまざまだ。

さまざまだが、本書で述べた歴史的人物のように、人間は^{ひとり}で生まれ独りで死んでいくのだという、孤独というものをちゃんと見つめる気持ちがあれば、それにささえられるものは決して少なくないだろうという気がする。

(五木寛之:孤独の力, 東京書籍, 2014.)